

● 9月6日・7日 ●

第40回東北ブロック研究大会 盛会裏に開催される

大会主題 語りあおう イーハトープの地で 「夢」と「誇り」と「志」を

東北各県から延べ2100余名が参加。大会初日は盛岡市内7分科会場で実践交流、意見交換が行われた。本大会特別課題として設定された「先人教育」「子どもの心を支える家族の絆」の第6・7分科会でも基調講演を踏まえ、パネルディスカッションが行われた。大会2日目は県民会館大ホールに達増拓也岩手県知事、谷藤裕明盛岡市長、曾我邦彦日本PTA全国協議会会長の臨席を得て、東北PTA連絡協議会会長の小野寺明美岩手県PTA連合会会長が挨拶を行った。引き続き各県表彰者への賞状伝達の後、鈴木祐子母親委員長が大会宣言を行った。アトラクションは県中文連の郷土芸能伝承活動の紹介と雫石高校生徒による「上駒木野参差踊」が披露された。記念講演は宗教学者の山折哲雄先生による「親の背中、子どもの素顔」と題する感銘深い講演であった。



声にならない「ありがとう」

大会実行委員長 松尾正弘

東北ブロック研究大会盛岡大会に向け実行委員会が結成され、第1回の会合で大会テーマ「語りあおうイーハトープの地で『夢』と『誇り』と『志』を」が決定いたしました。これは、盛岡市が推進している先人教育に基づいたものです。テーマが決まったことで大会の方向性がはっきりし、第6分科会を特別課題Ⅰ「先人教育」としました。今回の盛岡大会最大の特徴です。

さて、私が実行委員長に就任した時点ではつきりしていたのは開催期日だけで、それ以外ほとんどが白紙状態でした。テーマ、分科会会場、全体会と分科会の内容、講演者など、実行委員の皆さんが意見を出し合い、一つ一つ決定してまいりました。実行委員会が軌道にのってからは、総務、式典、受付、案内など各責任者がそれぞれの舵をとってくれました。いったいどれだけ会議を重ねたのかわかりません。実行委員の大部分

は教頭先生や盛岡市PTA連合会役員で、ただでさえ忙しい方ばかりです。その方々と、当日お手伝い頂いたPTA会員の労力の結晶が盛岡大会でした。

大会が終了後、委員と係の皆さんが集合して写真を撮りました。最後のお礼を述べる小野寺明美大会会長の頬を涙が伝いました。実行委員長も一言挨拶を、と促され、何かを言おうと思いましたが言葉が見つかりません。口は確かに「ありがとう」と動きましたが、出てきたのは涙だけでした。



第7分科会 特別課題Ⅱ
「親が変われば子ども変わる」

上田小PTA 鈴木祐子

様々な悲惨な事件報道に接するたび、社会環境の急激な変化や人間の「心の荒廃」を感じずにはいられません。家族生活の中で大切なものを置き去りにしてきた代償といえるのではないのでしょうか。第7分科会は母親委員会が運営を担当し、子どもの心の成長に最も大切な「子どもの心を支える家族の絆」をテーマに、親として今、何をなすべきか考え合いました。会場は男性と女性がほぼ半々で満席。「特別課題」として位置づけられ、「家庭教育セミナー」の側面を併せ持つ分科会趣旨の浸透が感じられました。基調講演は明星大学の高橋史朗先生で、「親学」についてたいへん示唆に富んだ助言を頂きました。高橋先生は日本社会の現状として「共感性（他人の痛みが分かる心）の欠如と、自己抑制力の欠如を挙げられ、経済優先の考え方が、子どもに対する愛情を破棄し、子どもの壁とな



るべき父性愛の欠如から、目標や夢を持たない無気力な若者が増えた」と分析しておられます。教育の原点は家庭。親は人生最初の教師であり教育の第一義的責任を負うこと。やさしさを育てるのは親の愛情しかない、との助言に参加者がうなずく姿が印象的でした。「しっかりと抱いて、下に降ろして、歩かせる」という日本人の子育ての知恵を凝縮させた格言が示すように、子どもが甘え依存する時期にしっかりと抱いて、時期が来たら子離れし、自立させる、という厳しくも慈愛に満ちた深い主張に大いに共感しました。



第六分科会
特別課題I

「先人教育のすすめ」

久慈中PTA 田村善博

「親の背中を見て子は育つ」、この言葉は先人教育の根幹に関わる言葉です。「先人教育」こそ現在の心が乱れた時代に必要な教育で地域の有名な人とか、偉人ばかりではなく、各家庭のご先祖、地域の先輩、郷土の先達の生き方や知恵を学び、自らの生き方を考えるものです。分科会では、盛岡先人記念館の吉丸蓉子館長の基調講演の後、「子ども」の夢や心を育むふるさと「よさ」の活動への生かし方や「先人の知恵、生き方に学ぶ教育を支援するPTA活動」を軸に活発な討議



誰も寝なかつた！分科会

山目中PTA 神崎浩之

時が猛暑真つただ中。7つの会場がある中で唯一クーラーの無い、学校での分科会。この会場だけうわが配られていた。最後までうちわのそよぎが止まらない、寝ている暇がない、近年まれな熱心な聴講生であった。もちろん基調講演やパネルディスカッションの内容がすばらしかった事は言うに及ばずだが。

【基調講演】

滝沢村の劇団「ゆう」を主宰する菊田第一氏である。

子供達と17年劇団で接してきて、今の子供はかわつてきたといわれるが「子ども」の原点は変わらない。人の出会いや環境が子どもたちの心を変える。子どもは親の鏡であることを子どもたちは教えてくれる。多様な文化、様々な体験、選択の機会の多さが、子どもたちの人生を豊かにするということを実感している。

【パネルディスカッション】

一人目は「東京の学校でPTAを廃止した事に危機を感じている」宮城県P連

祝
感謝状・表彰状受賞
平成20年度東北PTA連絡協議会

団体(12)

- 久慈市立小久慈小学校PTA (会長 櫛桁 浩司)
- 二戸市立金田一中学校PTA (会長 藤原 秀義)
- 盛岡市立羽場小学校PTA (会長 米澤 慎悦)
- 盛岡市立玉山中学校PTA (会長 廣田 勉)
- 岩手町立岩瀬張小学校PTA (会長 細野 勉)
- 紫波町立赤石小学校PTA (会長 下脇 良伸)
- 花巻市立宮野目中学校PTA (会長 佐藤 博)
- 奥州市立衣川小学校PTA (会長 菅原 悦朗)
- 一関市立門崎小学校PTA (会長 伊藤 靖)
- 一関市立折壁小学校PTA (会長 奥野 幸市)
- 宮古市立亀岳小学校PTA (会長 滝野 修)
- 田野畑村立沼袋小学校PTA (会長 吉塚 公雄)

個人(5名)

- 十文字保雄 社団法人 岩手県PTA 連合会前副会長
- 武田 哲 社団法人 岩手県PTA 連合会前副会長
- 菊池 和幸 社団法人 岩手県PTA 連合会前副会長
- 上林 淨 社団法人 岩手県PTA 連合会前副会長
- 高山 定子 社団法人 岩手県PTA 連合会前副会長・母親委員

